Y07b 県立ぐんま天文台における天文教育普及活動

河北 秀世 (県立ぐんま天文台)、田口 光 (県立ぐんま天文台)、西原 英治 (県立ぐんま天文台)、他県立ぐんま天文台スタッフ

県立ぐんま天文台における天文教育普及活動について報告する。群馬県の小学校では、新しい学習指導要領の総合学習をにらんだ、チャレンジスクールという取り組みが始まっている。このチャレンジスクールは授業の一環として県下の施設を利用するもので、ぐんま天文台では理科の授業のうち天文に関する部分を担っている。この試みは、まだ、一部の学校を対象とした試行段階であるが、すでにいくつかの学校が天文台を訪れている。これらの授業は昼間にも夜間にも行われるため、ぐんま天文台の器材を最大限利用して授業を行っている。特に昼間は太陽望遠鏡による 1m 直径の拡大投影像とスペクトルによる学習を、そして夜間には 150cm 口径望遠鏡を用いた天体の観測を中心に据えてプログラムを組んでいる。年会では、これらプログラムを実際に行った様子について報告する。また、ぐんま天文台では平成 11 年 7 月より 65cm 口径望遠鏡及び観察用望遠鏡（25cm〜30cm 口径）の貸し出しを始めた。これら望遠鏡を利用するためには、操作講習会を受講して望遠鏡の操作を習得している必要がある。平成 11 年 10 月までには、65cm 口径望遠鏡及び観察用望遠鏡の利用資格保持者総数は、100 人を大きく超える予定である。そこで、ぐんま天文台では利用者の意識調査のため、利用資格保持者に利用目的などのアンケートを行った。65cm 反射望遠鏡、観察用望遠鏡共に CCD カメラや光電測光器などの観測機器が取り付けられる望遠鏡である。このような学術研究にも利用可能な望遠鏡に対し、一般の利用者が何を求めているのかについてまとめ、中小口径望遠鏡の天文教育普及活動における役割について検討することがアンケートの目的である。年会では、アンケートの結果についても報告する。